

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果より

～我孫子第四小学校～

学力について

☆問題 A:主に「知識」に関する問題 問題 B:主に「活用」に関する問題

- 国語 A … 全国・県平均正答率と「ほぼ同程度」
国語 B … 全国・県平均正答率と「ほぼ同程度」
算数 A … 全国・県平均正答率から「やや上回っている」
算数 B … 全国・県平均正答率から「やや上回っている」

国語について

- 『読むこと』『書くこと』は正答率が特に高く、無回答も少ない。
- △『話すこと・聞くこと』はやや正答率が低い。

算数について

- 『数と計算』は正答率が特に高い。
- 『事象の数学的な解釈と表現』『事象の観察と論理的な考察』は、全国的に課題が見られるが、本校の正答率が高い。
- △選択式問題でも無回答がやや多い。

自尊意識
生活習慣等

☆児童に対する質問紙調査結果より

教科への関心について

- 国語への関心は全国・県平均より高い。
- △算数への関心は全国・県平均よりやや低い。

生活習慣について

- 基本的な生活習慣が出来ている児童が多い。
- △毎日朝食を食べていない児童が、全国・県平均より多い。

読書習慣について

- 読書好きな児童は多い。普段読書する児童も多い。

家庭学習の習慣について

- △予習・復習を全くしない児童が全国・県平均より多い。

その他について

- 学校が楽しい児童が多く、規範意識は高い。
- 考えを説明したり、文章を書いたりすることに抵抗が少ない。

【調査結果からの今後の取り組みについて】

国語

- 故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で用いることができるようにする。
 - ・ 故事成語の意味調べや、先人の知恵や教訓，機知に触れることができるように指導する。辞書の活用をより計画的に行う。
- 教科書の物語の読み取りと関連を図り、物語の創作に取り組む。
 - ・ 読むことの学習において、描写の工夫（行動や表情，会話，風景）などの効果を理解することができるように指導する。
- 登場人物の人物像や相互関係を捉えるようにする。
 - ・ 中心人物を押さえ、その人物と周囲の主な登場人物について、行動や会話文，情景描写などに着目しながら、それぞれの人物像がわかる言葉を書きだしたり，整理したりするなどの指導をする。
- 討論会などを行い，司会の役割を理解させ，立場や意図を捉えながら話し合いの観点を整理できるようにする。
 - ・ 話し合い（交流）活動の時間を意図的に設け，各教科との関連を図りながら，全員が司会の役割を経験する機会を設けるなどする。複数の発言内容を聞き分け，考えの立場や見解を分類・整理するなどできるよう，適切な観点を設定し，指導する。
- 話し合い活動などで，目的に応じた適切な質問ができるようにする。
 - ・ 互いの立場や意図を明確にして質問し合うことが重要である。そのために，多様な質問の観点とそれに基づく話し方を具体的に指導する。話し手の発言内容の中から，中心となる考え，理由や根拠などを，短い言葉で要約してメモなどに書き留めるよう指導する。
- 詩などの解釈における着眼点の違いを捉えられるようにする。
 - ・ 自分の考えと相手の考えを比較しながら，共通点や相違点を整理することができるよう指導する。互いの考えを分類して，どのような着眼点に基づくものかを明確にすることを指導する。

☆上記の他に，我孫子市の分析による国語科の日常的な取り組みも実施していきます。

算数

- 「(整数) × (整数)」の計算について、確実に定着できるようにする。
 - ・ 掛算九九から徹底的なくり返し指導を、家庭とも連携して行う。空位のある整数の乗法では、位に気を付けて処理するよう適宜練習の機会を設け指導する。
- 図形の性質に基づき意味を理解して作図ができるようにする。
 - ・ 作図において、なぜその道具を使用するのか理由を話し合い、図形の性質と結び付けるよう指導する。
- 数量の關係に記号を用いて式に表わす良さを理解できるようにする。
 - ・ 記号は変数を表すものとして理解し、記号を用いて式に表わすと、数量の關係を簡潔、明瞭、的確に、また、一般的に表すことができる良さを図形の公式などを例にして指導する。
- 問題の解決に必要な情報を選択し、根拠となる事實を関連づけることで、解決の方法や判断の理由を説明することができるようにする。
 - ・ 問題解決の過程を説明する際には、問題（文章や図、表、グラフ等）から必要となる情報を選択すると共に、根拠となる事實を関連づけて判断の理由を的確に示すことが大切であることを指導する。

☆上記の他に、我孫子市の分析による算数科の日常的な取り組みも実施していきます。

自尊意識・生活習慣

- 読書習慣を継続するために、今後も読書タイムを大切にしっかりと取り組む。
- 高い規範意識を継続するために、今後も『四小児童の基礎・基本』を大切に指導する。
 - ・ 「ハイ」という返事
 - ・ あいさつ
 - ・ 「ありがとう」「ごめんなさい」
 - ・ かさ、くつをそろえる
- 家庭学習については、千葉県教育委員会「家庭学習のすすめ」をHPや学校便りにて紹介し、活用を推進していく。

☆ **今後も本校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。**